



信州中野・唱歌の里と小布施ウォーク

2025.05.18 5.0km+α

コースの概要

有名な唱歌の作詞者・高野辰之博士ゆかりの地、中野市と葛飾北斎の「八方睨み鳳凰図」で有名な小布施・岩松院をめぐる。スタートは道の駅・ふるさと豊田です。田舎道を歩いてまず高野辰之記念館に行きます。記念館は辰之が学び教鞭をとった永田尋常小学校の跡地にあります。その後、辰之の生家に寄り、唱歌「朧月夜」の歌詞にある真宝寺の鐘楼を見て斑(いかる)川沿いの遊歩道を歩いてふるさと橋に向かいます。斑川は唱歌「春の小川」の小川や「故郷」にある「こぶな釣りしかの川」だと言われます。ふるさと橋の欄干にあるパネルを順にたたくと「故郷」のメロディになります。

昼食は道の駅です。ここには食堂がありますが、次に行く小布施・岩松院は時間予約で余裕が全くないので食堂の利用は控えてください。計画した出発時刻を守るため、昼食時間を短縮する可能性もあります。昼食後、バスで20分ほどの隣の小布施にある岩松院に向かいます。八方睨み鳳凰図拝観は時間制になっており13:00を予約してあります。この時間に間に合わなかった場合は、10分ほどの説明が受けられません。更に13:30を超えると拝観にも種々の制約があるので時間を守って行動してください。寺の境内には戦国武将・福島正則の霊廟や小林一茶の句碑などがあります。岩松院からバスで10分ほど移動して北斎館の駐車場に行きます。ここからはフリー散策時間としますので、小布施の街を各自散策やショッピングでお楽しみください。コース図に散策コースの例があります。役員が案内しますので、ご希望の方は一緒にどうぞ。駐車場のトイレの数が少ないので効率よく使用願います(北斎館は入場しなくてもトイレ利用は可能です)。今回は往復とも中部横断自動車道を使います。

コース

往路 富士宮駅南口＝富沢IC＝双葉JCT＝八ヶ岳PA(WC)＝姥捨SA(WC)＝豊田飯山IC
6:00 7:30～40 8:55～9:05

＝道の駅・ふるさと豊田(WC・体操)

9:45～10:00

ウォーク 道の駅(スタート)・・・高野辰之記念館(WC)・・・高野辰之生家・・・真宝寺・・・

10:00 10:30～10:50 10:55～11:00 11:05～10

ふるさと橋・・・道の駅(昼食・WC)＝豊田飯山IC＝信州中野IC＝岩松院(WC)

11:25 11:50～12:30 12:55～13:30

＝北斎館P・・・フリー散策・・・北斎館P(ゴール・WC)

13:40 14:10～20

復路 北斎館P＝小布施スマートIC＝諏訪湖SA(WC)＝双葉JCT＝富沢IC＝富士宮駅南口

14:20 15:40～15:55 18:00

次回申込(朝・集合場所で) 鎌倉・あじさい寺めぐりウォーク

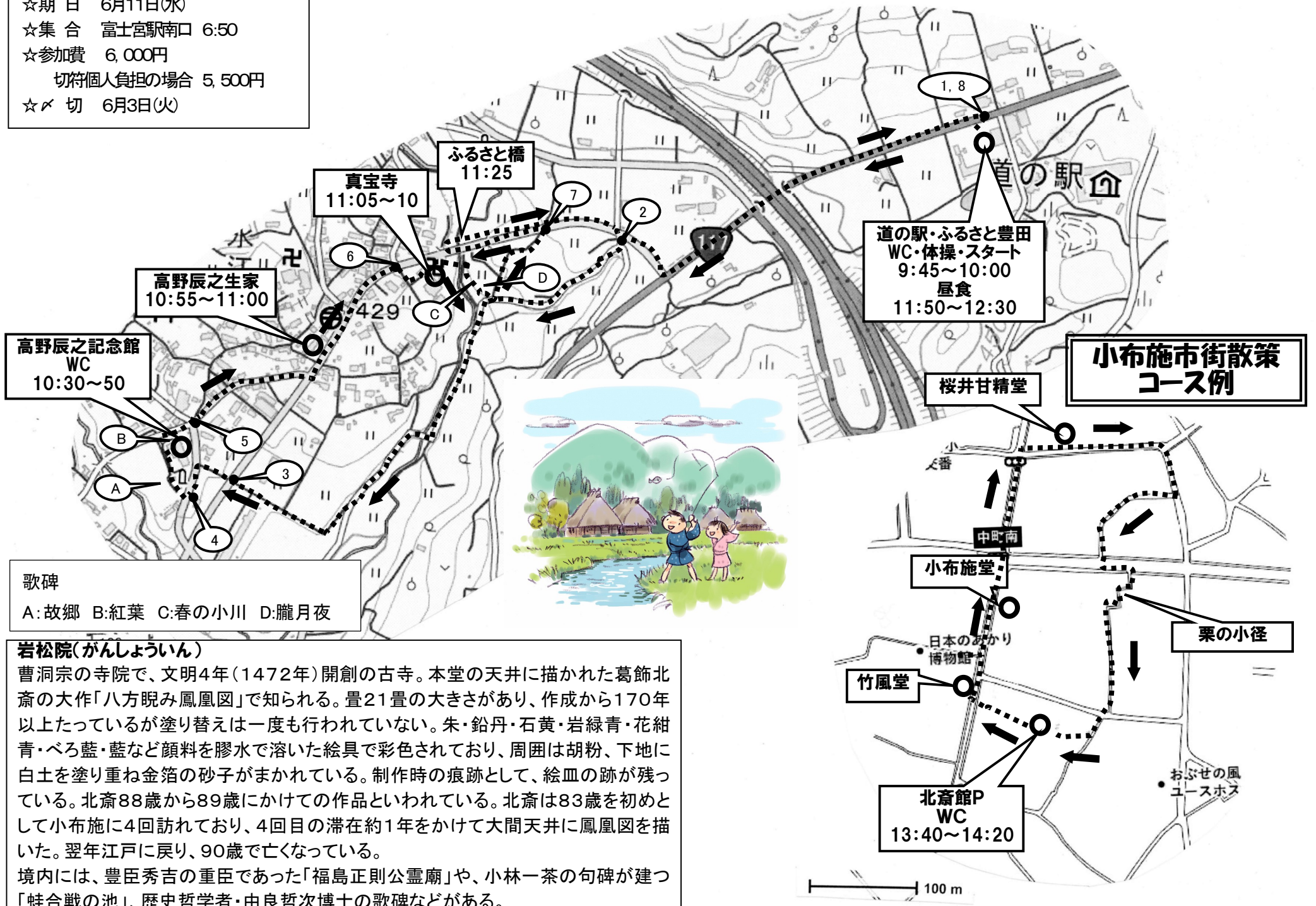
☆期日 6月11日(水)

☆集合 富士宮駅南口 6:50

☆参加費 6,000円

切符個人負担の場合 5,500円

☆〆切 6月3日(火)



歌碑

A: 故郷 B: 紅葉 C: 春の小川 D: 朧月夜

岩松院(がんしょういん)

曹洞宗の寺院で、文明4年(1472年)開創の古寺。本堂の天井に描かれた葛飾北斎の大作「八方睨み鳳凰図」で知られる。畳21畳の大きさがあり、作成から170年以上上っているが塗り替えは一度も行われていない。朱・鉛丹・石黄・岩緑青・花紺青・べろ藍・藍など顔料を膠水で溶いた絵具で彩色されており、周囲は胡粉、下地に白土を塗り重ね金箔の砂子がまかれている。制作時の痕跡として、絵皿の跡が残っている。北斎88歳から89歳にかけての作品といわれている。北斎は83歳を初めとして小布施に4回訪れており、4回目の滞在約1年をかけて大間天井に鳳凰図を描いた。翌年江戸に戻り、90歳で亡くなっている。

境内には、豊臣秀吉の重臣であった「福島正則公霊廟」や、小林一茶の句碑が建つ「蛙合戦の池」、歴史哲学者・由良哲次博士の歌碑などがある。

参加者の皆様へ

- ・ 無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・ 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・ スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・ 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・ 一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・ 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

高野辰之

1876年(明治9年)、長野県水内郡永江村(現中野市)に生まれた。厳しい父のもとで躰けられた辰之は、農業の手伝いをするかたわら、土蔵に隠れて本をむさぼり読むという向学の志にあふれた少年であった。高等小学校を卒業後、母校の永田尋常小学校の代用教員を務め、その3年後には長野県尋常師範学校(現信州大学教育学部)に入学。この頃から、千首あまりの和歌を作っていたといわれる。26歳の時、上田万年(まんねん)文学博士(円地文子の父)を頼って上京。博士のもとで国語、国文学の研究に没頭し、やがて「文部省国語教科書編纂委員」に選ばれて、国文学者としての地歩を固めていく。国が初めて発行した国定音楽教科書「尋常小学唱歌」を編纂する一方で、「故郷」「朧月夜」「春の小川」「春が来た」「紅葉」などの文部省唱歌、全国の校歌や中山晋平作曲の「飯山小唄」などを作詞した。明治後期からは、「日本歌謡史」「江戸文学史」「日本演劇史」を次々と書き上げ、これらは、高野辰之の三大著作として近代の国文学に大きな功績を残した。1925年(大正14年)に東京帝国大学から文学博士の学位を、1928年(昭和3年)には帝国学士院賞を授与されている。

緊急時連絡

高戸 栄行 090-8135-3306

宇佐美武幸 090-7025-9607